



施設紹介

## 県食肉衛生検査所

菊池郡七城町林原

電話 (09682) 6-4231

戦後わが国は国民生活並びに食生活の高度化多様化に伴い食肉及び食肉製品に対する需要は著しく、二百海里規制実施後の蛋白源として食肉の需要は更に急激な上昇を示し、それに比例し食肉の安全に對しての国民の関心も又極めて高くなっております。

国はこれ等国民の負担に應えるためと畜場法、食品衛生法、飼料安全法等諸法の整備補充により対応しております。

食肉衛生検査所は昭和四十八年三月三十一日菊池郡七城町大字林原の広大な敷地に設立された畜産流通センターの一角に新築された鉄筋コンクリート二階建(四百八十三平方メートル)の建物であり細菌室、理化学室、病理室等九室からなり、食肉の安全を期するための科学的精密検査器具を整備し、搬入される獣畜(牛・豚等)についてはと畜場法、食品衛生法の規程にもとづいて高度の検査を正確に実施し百七十八万県民は勿論全国の消費者に對し安全にして衛生的な食肉を供給できるよう検査の万全を期しております。

食肉供給の基地である畜産流通センターは、菊池川のほとり十一ヘクタールの広大な台地に、県の重要施策として昭和四十八年五月から開所した衛生的処理施設です。豊富な水量に恵まれその環境は

全国一で、近代化されたオンライン方式の設備を採用し一日の処理能力は牛五十頭豚一千頭の全国第十一位程度の公社運営の食肉センターであります。

昭和五十三年年度の検査頭数は開所時(昭和四十八年度)に比し牛で七・五倍豚で二・五倍の総数二十三万頭と頭数の伸びは著しく、搬入されるこれ等獣畜に對し所長以下十四名の職員で左記の検査体制で対応しております。

- 一、獣畜(牛、豚等)検査
  - 生体検査—と殺解体—解剖検査—枝肉検査—検印
- 二、精密検査



▲枝肉検査風景

- 1 細菌検査
  - 採血、採尿、病変部採取—鏡検、培養、動物実験—微生物検査
- 2 病理組織検査
  - 検体採取—固定—標本作成—寄生虫学的検査病理組織検査
- 3 理化学検査
  - 採血、採尿、病変部採取—血球数の算定(赤血球、白血球)異常血液像—ガン、その他肉の腐敗度検査、肉の鮮度検査 浄化槽汚水検査



このコーナーは県出身者で各界で活躍しておられる方々を紹介するとともに、県政への提言などをお聞きするものです。

# 本当の厳しさ

広島東洋カープ監督 古葉竹識

昨年、待望の日本一になった赤ヘル軍団、広島東洋カープの古葉竹識監督をさる一月末のある日、広島市の球団事務所に訪ねた。シーズンオフとはいえ、日本一の監督はテレビ出演やサイン会など忙しそうである。「僕は柔らかいとよく人にいわれますが、これは表情から受けるものだと思います。しかし厳しさでは、他の監督さんには絶対負けません」と濃厚な笑顔で語る。

赤ヘルラインの一人ひとりに浸透した古葉野球が今年も連続優勝を果たして赤ヘル時代を築くよう心から健闘を祈りたい。

昭和十一年熊本市生まれ。濟々費から専大、日鉄二瀬へ。三十三年広島カープ入団。内野手として活躍。三十九、四十三年盗塁王四十五年から南海ホークス。四十九年広島に戻り五十年に監督就任、この年に球団創立初のリーグ優勝、五十四年シリーズ優勝を果たす。現住所、広島市牛田旭二丁目二一三六

## 思い出

僕が野球を覚えたのは小学校三年の時、ちょうど終戦の年なんです。当時は熊本市二本木の古町小学校に通ってました。それで焼夷弾攻撃で町が焼け野原になってしまいましたね。焼け跡を皆んなで片づけて広場にして、そこで野球といますか、ままことの野球をやっていたわけなんです。

その頃は物がなかった時代ですから、野球道具なんて何もないんですよ。それでボールは中に石をつめて外側をおふろに布切れと糸でぐるぐる巻いて縫ってもらったんですよ。バットにしても竹バットとか、木を削って作っていました。本当に野球が好きでね。他にはパッチンとかラムネ玉、コマなどで遊んだ思い出がありますね。食べ物だってさつまいもとかポチャだけですからね。ああいう時代は二度とあってはいけません、僕は貴重な体験をしたと思いますね。

## 濟濟費

昭和二十七年に濟濟費に入りました。僕は野球もやりたいけど濟濟費に入らなです。甲子園にもいきませんでした。確か昭和二十八年の春だったと思います。三回戦で負けましたけれどね。